高等部道徳科学習指導案 『富士山の姿』

**１　主題名**　新たな発想を生み出す　A-（5）真理の探究　創造

**２　ねらいと教材**

（１）ねらい

・新たな発想を生み出す

・物事の見方は一様ではなく、人や状況によって異なることが分かる。

・事柄に対する相違点や共通点を見付け、他の見方や考え方を受け入れることができる。

（２）教材　富士山の姿（P28-31）

**３　主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

A　主として自分自身に関すること　（５）　真理の探究　創造

真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。

（１）ねらいとする道徳的価値について【価値観】

様々な事柄に対する見方や考え方がある。このことを、自分自身で考えて、新たなものを発想する時に必要である。また、自分とは違う見方や考え方をする他者を知ることは、よりよい人間関係を築くことにつながる。自分とは違う見方や考え方があることを知り、そして、自分はどのように関わっていくかを考える体験を通して、探究し、新たなものを生み出そうとする態度を育てていきたい。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちを簡単な言葉で書き表すことができる生徒を対象とする。字を書くことが苦手な生徒に対しては、話し言葉での表現を代筆する、タブレット端末を使用するなどの配慮を行う。

日常の学校生活においては、生徒指導や特別活動、また自立活動を中心に、他者との関わりを深めると共に、様々な見方や考え方があることに触れられるようにする。

家庭生活の中でも、様々な事柄に興味・関心をもてるように、連携を深めておく。

（３）教材について【教材観】

美術の授業で複数枚の富士山の絵や写真を鑑賞し、自分のイメージと異なった富士山の絵や写真に出会い、主人公は、自分自身で調べ、自分のイメージとは違う富士山があることを知った。そのことに面白さを感じ、深く知りたいという気持ちと自分なりの富士山を創造しようという気持ちをもつようになった。

この話を読み、主人公の加奈さんが体験したことを同じように体験できるようになっている。そこから、加奈さんの気持ちを推測する学習ができるようになっている。そして、さらに、P31の題材を用いることで、自分の見方や考え方、他者の見方や考え方を知ることができるような教材である。

**４　学習指導計画**

（１）全体計画　１時間（本時）

（２）準備　いろいろな「富士山」の拡大写真、補助プリント

（３）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点  ☆評価の観点 |
| 導  入 |  | １　いろいろな「富士山」を見て、どの富士山が好きかを選ぶ。  ・どの富士山が好きかを発表する。  ・クラスの中でも考え方が分かれることに気づく。 | ・〇〇さんと同じだ。  ・〇〇さんは、△番の富士山が好きなのか。 | ・選ぶものに正解はないことを伝え、好きなものを選べる環境づくりをする。  ☆物事の感じ方は人によって異なることが分かる。  （知・技） |
| 展  開 |  | ２　教材「富士山の姿」を読む。  〇なぜ、加奈さんは富士山について、もっと知りたくなったのでしょうか。  ・P30に自分の考えを記入する。  ・書いたことを発表する。  ３　信号機の写真、ドローンの写真を見て、それぞれの違いや特徴を考える。  〇写真を見て、みなさんはどう考えますか？  〇.他の人は、どう考えていますか？  ・P31に自分の考えを記入する。   1. ②を順番に記入させる。   ・書いたことを発表する。  〇他の人の考えを聞いて、どのように感じましたか？ | 課題　加奈さんが富士山について、もっと知りたいと思った理由を考える。  ・富士山のことを面白いと思った。  ・他の人が富士山について、どう感じたかを知りたくなった。  課題　同じ写真を見て、他の人は、どのように考えるだろうか。  ・縦の信号と横の信号。  ・飛んでいるけれど、誰も乗っていない。  ・〇〇さんと同じだった。  ・〇〇さんは△△と考えていたけれど、自分では思いつかなかった。 | ・生徒の考えを板書して残しておく。  ☆他者の見方や考え方を知ろうとする。  （態度）  ☆事柄に対する相違点や共通点を見付け、他の見方や考え方を受け入れることができる。  （思・判・表） |
| 終  末 |  | ４　題材に対する自分の見方や考え方を表現できたことと共に、他者の見方や考え方を受け入れることができていたことを称賛する。  ・自分の見方や考え方を明らかにすると同時に、他者の見方や考え方を知ることで、自分の見方や考え方が広がっていくことに期待をもてるようにする。 |  |  |

（４）終末での教師の説話例

自分が興味をもって見たり、調べたりしたことについて、他者の見方や考え方を知ることで、さらに、興味が深まっていった教師自身の体験を話す。

自分だけで考えていても、ある時を境に発想が止まってしまったり、いつも同じになってしまったりする。新しいものを作り出す時には、他者がどのように考えているのかを知ることは大切であることを伝える。

また、自分が興味のあることについては、見たり、聞いたり、調べたりといろいろな方法を使って、深めていきたいと教師自身が思っていることについて、具体例を挙げながら、伝える。